

わかやまをつくり守っています。



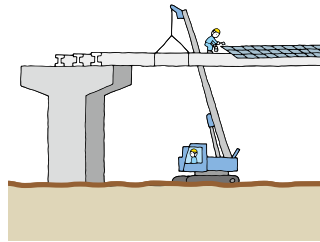
わかやまの建設

道路やトンネル、ダム、橋などを作り、災害をふせぐ「土木の仕事」と、工場やマンション、大型スーパーなどをつくる「建築の仕事」。

わたしたちの安全で便利なくらしを支えているこの2つの仕事をあわせて「建設の仕事」といいます。

今回は、わかやまをつくり、守っている「建設の仕事」を紹介している連載記事「わかやまの建設」のこれまでをふりかえってみましょう。

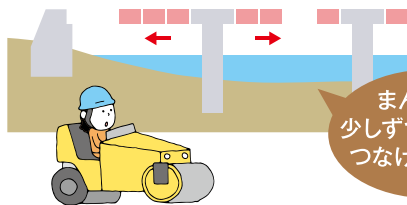
山や森、川、海などの自然を相手に、道路やトンネル、ダム、橋など私たちの暮らしや経済活動を支える社会基盤（「インフラ」ともいわれます）をつくる仕事です。蛇口をひねると水が出る、橋やトンネルができて移動時間が短くなった、洪水の被害を減らすなど、私たちの安全で便利な暮らしを支えているのは土木の仕事なんです。



土木のしごと



「やじろべえ工法」でつくる熊野川河口大橋。
(第1回取材：新宮市)



まん中から
少しずつのぼして、
つなげてゆくよ。



コンクリートがかけたりはがれ落ちていたりするところを強くしたり、ひびわれのすきまをうめたり、水が下に落ちないように水の道をつけたり、工事ではいろいろな作業をしています。



交通量の少ない夜間から早朝にかけて行われる「トンネル補修工事」。

(第2回取材：海南市)



1ミリ単位の作業が要求されます。

大雨や台風が起こると、川の水があふれて私たちの住んでいるところに水があふれてしまいます。そうならないように古くなった用水路を直し、水を川に戻す施設などを作ることが「暮らしを守る排水計画」です。

(第5回取材：紀の川市)



災害復旧の場合は計画的な工事とちがいで、いろんなことをその場で判断しなければいけません。道路の反対側にいるスタッフや協力会社の人たちと連らくを取り合いながら、いかに早く安全に開通させるかを考えて工事が進められます。

時にはドローンやレーザースキャンといった最新技術も導入し、いち早く復旧工事をする「災害復旧工事」。

(第3回取材：串本町)



プレゼントコーナー

和歌山県建設業協会さんから建設学習帳をプレゼント。

担任の先生にお願いして、クラス全員の数で申しこんでもらってください。
(ご担任の先生、よろしくお願いいたします。)

※部数に限りがありますので、お申込多数の場合は先着順とさせていただきます。



【申込方法】
「学校名・クラス名・冊数、住所」をファックスください。
Fax.073-446-8881
白光印刷株式会社まで。